

八中2年人権だより

徳島市 八万中学校
2年生 第14号
2023年10月18日
編集・発行 吉成正士

(第13号からのつづき)

選挙に行く前にしておくこと

■今日、映画を観て、今まで言葉でしか聞いてこなかった戦争の風景がとてもよく伝わってきました。言葉で聞いていても恐ろしいものだったのに、映像化されたものを見ると、戦闘に行く人の気持ち、家族を送り出す人の気持ちがありました。幸一さんがけがをしている米兵を殺せと命令されたにも関わらず、「私に人を殺すことはできません」と言っていたことが、私は印象に残っています。「上官に逆らうことは天皇に逆らうこと」と上官が言っていました。けれど幸一さんは同じ人間なんだからと自分の正義を貫いているように感じました。そんな幸一さんはカッコいいし、尊敬しました。かといって上官に命令され、人を殺してしまった人も、好きでしていないと思うし、すべて悪いのはこのような命令をしている国であると私は思います。

今、私たちは平和に過ごしているけど、これからこの国でどんなことがあるか分かりません。もしかしたら戦争がまた起こってしまうかもしれない。そんな国にしない為に私たちが大人になったら選挙に行き、自分たちも国についてしっかり考えなければいけないと思いました。

4組KR

「選挙に行く」ことも大事な行動の一つです。「選挙に行かない」ということは、「どうでもいい」ということです。「どうでもいい」ということは、「殺されても文句は言いません」ということにもなりかねません。ただ、結果的に票の多い人が実権を握ることを考えると、自分の思いや考えを本当に反映させようと思えば、「選挙に行かない」だけではなく、単に「選挙に行く」だけでもなく、自分の思いや考えを広く訴えかけ、仲間をつくること、そのうえで投票を呼びかけること、もっと言えば、自分が立候補してしまうことも必要かもしれません。

また、単に「選挙に行く」にしても、立候補しているどの人がどんな主義・主張を持っているかということを知っておかないと、誰に投票していいのか分かりませんよね。それに、これは立候補者だけでなくどんな人も同じですが、自分にとって都合の悪いことはまず言いません。都合のいいことしか言いません。そこを見極められる眼を持つことです。周りのみんなと語り合うことも必要なことでしょう。

いずれにしても、ニュースや新聞などを見て、今の社会の動きに関心を持つことです。ネットニュースは不十分です。その人に合った情報しか届かないようになっているようですから。様々な方面から情報を得たうえで、それを鵜呑みにせず、自分の頭で考え、判断できるようになることです。

みんな違ってみんないい？ホントに？

■私は「さとうきび畑の唄」を観て、とてもつらかったです。私は平山幸一さんの言葉が胸に刺さりました。「アメリカの人も同じ人間」です。他の沖縄の人や軍人さんはアメリカを悪いものと扱っていて、同じ人間なのに戦争をしたりいじめたりするのは、自分とこの人は違うと思っています。同じ人間だと思っていないからできるのでないかと私は思います。みんなが平山幸一さんのような人間だったら戦争やいじめはなくなると思っている人もいます。一人一人の個性をみんなと理解し合えば、戦争やいじめをなくせるのではないかと思います。

4組KR

そうです。人は、「みんな違ってみんないい」です。ホモサピエンスという種としては同じですが、個々を見ていくと同じではなく、みんな違うわけですから。その違いが認められない限りは、個性が認められるということにはならないわけです。

では、どんな違いも本当にすべて認められていいのでしょうか。例えば、「人を傷つけたい」とか、「相手の国をやっつけたい」と思う個性も認められるのでしょうか。「人の幸せを奪いたい」「相手の国の資源を奪いたい」と思う個性も認められるのでしょうか。もし、「それは認められない」「何でもかんでも認められるわけではない」というならば、認められる個性や「違い」には条件が必要だということになります。さて、そこに必要な条件とは何でしょうか。考えてみてください。



生きたいと思うことの何が“非”か

■この映画を観て私は、日本の国民は「天皇のために命を落とすのは尊いこと」だと思っている人たちがほとんどでした。だから命を落とすことを惜しむ人たちの思いが間違いであり、そんな人たちを非国民だと言っていました。勝手に戦争を始めた人たちのために、どうして関係のな

い人たちが死ななければいけないのか。生きたいと思うことの何が“非”であるのか、理不尽に戦争へ駆り出されて亡くなっていった人たちが何万人もいたという事実が、本当の意味で戦争のむなしさを感じさせました。

今年の12月に2年生は修学旅行で沖縄へ行きます。どこに行くか詳しくは聞いてませんが、少しでも日本の戦争の歴史にふれることができるなら、私はその学習と真剣に向き合いたいと思いました。 1組HA



人づくりは国づくり どんな人をつくる?

■私は「さとうきび畑の唄」を観て、戦争が起こっても何一つ良いことがないと分かりました。幸せな家族がいて、幸せな暮らしだったのに、戦争が起こるだけで家族がバラバラになり、大切な宝物がどんどん減っていくとDVDを観て思いました。一人一人には夢があり、その一人一人には大切な人、愛してしてくれる人、大切に育ててくれた人がいるのに、それを戦争は奪ってしまうと知り怖くなりました。

そして、一番恐ろしいのは、「天皇陛下のために死ぬることはうれしいこと」と教育している日本だと思いました。幸一さんが言っていたように、人間は同じ人間と戦争するために生まれてきたのではなく、同じ人間だからこそ手と手を取って幸せに、争いがないような世界をつくるために生まれてきたのではないのかと思いました。一人には二千人以上もの先祖がいると知り、私は命を奪ってはいけないと思いました。 4組SY

どうやってその思考になっていったか

■僕は「さとうきび畑の唄」を観て、戦争は皆を不幸にするし、悲惨なことだと分かっていたけれど、このドラマを見て改めて分かった。人の死がどれだけ悲しくつらいことなのかよく分かった。

自分が一番印象に残ったのは、「Do you kill me?」と訊いて、「大丈夫、心配しないで」とアメリカ兵が言った場面で、そこで感じたのは、国が違っても人は人、同じ感情を持っている。だからこそこういった争いはなくしていかなければならないと思った。

国のために死ぬことが立派なことだと思っていた日本人が、どうやってその思考になったのか知りたいと思っ

た。戦争をしなければいけなかった時代とはいえ、なぜ戦争という手段になってしまったのかが不思議に思った。理解できないようなことがたくさんあった。今ではあり得ないことがたくさん起きていた。でもそれが、戦争だと思った。

4組NT

みんな、赤ちゃんとして産まれてきたときは真っ白で、何の考えや主義・主張もなかったはずですが、そこから少しずつ周りの影響を受けて、自分なりの考えがつけられていきます。そのうえで重要な影響力が、教育なのだと思います。

皆さんは基本的に、言われたことを素直に信じ、実践しようとしてくれます。だから、ドラマの中で特に象徴的だったのは、美枝と昇の二人だったのではないのでしょうか。女学生だった美枝と、中学生だった昇です。春子は小学生で小さかったし、勇や紀子は、もう分別がつく大人でした。つまり、教育によって一番被害を受けるのは、若者だということです。教育にはそれだけの責任があるのです。にもかかわらず、当時は教育や情報などのすべてをコントロールしていたわけです。それは、戦時中だけでなく、いつも気をつけていなければなりません。今もです。常に監視していないと、自然に、または誰かが意図的にコントロールしている可能性もあるわけです。

先の大戦を思うと、私も教育に身を置く者として、身が引き締まる思いです。教育が人をつくります。国をつくるのは、その「人」です。国づくりは、まず人づくりからです。だからどうしても、人権学習や平和学習は必要だと思うのです。



今回の学年全体人権学習では、ドラマを見てもらった後に意見交換を行いました。なかなか手が挙がらず苦労しましたが、それでも10人が感想やそれぞれの考えを述べてくれました。今回の反省を受けて、次回11月10日の授業参観では主体的に手を挙げてくれることを期待しています。そのときに、今回やったワークショップ、「皆さんはどうですか?」の呼びかけ、問いかけを、場面に応じて使ってみてください。そして、自分たちで授業をつくってみてください。先生などいなくても、自分たちで授業を組み立てていく体験をしてみてください。それができて初めて、自分で歩いていくことを学ぶのです。

(第15号につづく)